

【質問】今後も児童生徒数が減少する見込みとなっているが、複数学級にするために、1学級の人数を減らして学級数を増やすことはできないのか。

【回答】現在の国の基準では、小学校は36人以上で2学級、中学校では41人以上で2学級となる。特別支援学級にいる児童生徒を除いた人数となる。

【質問】江戸崎小学校の1年生は36人いるにもかかわらず2学級にならないのはなぜか。

【回答】国の基準で通常学級の児童が36人以上いる場合に2学級となる。そのうち特別支援学級に在籍している児童が1人以上いる場合には1学級となる。

【質問】朝の会、帰りの会を1つの学級で行っていて、国語と算数は2つの学級に分けて授業を行っているのであれば学級を分けてしまえばどうか。

【回答】本来であれば1人の教員で行うところを、市でTT講師を雇用し2つの学級に分けて授業を行えている。全ての学校で実施することは難しい。

【質問】小学校が江戸崎中学校の敷地内となった場合、江戸崎中学校の坂を小学1年生が登って登校することは危険ではないか。

【回答】安全を最優先に検討し、先進地事例なども参考に統合までに検討したい。

【質問】人口を増やすような施策を考えてはどうか。

【回答】市の総合計画を中心に人口減少に対する計画を立て実行していく。

【意見】現在、立哨当番を保護者で行っているが、市で補助等をしてもらうことはできないか。

【回答】沼里小学校、高田小学校の児童が江戸崎小学校に通学する場合、スクールバスを利用することとなるが、その乗降場所にも見守りをする保護者は必要となるため、現在の立哨当番を行っている保護者の数は変わらないこととなる。元の江戸崎小学校の保護者数も減少していくことから、今後検討していく課題と認識している。

【質問】10年後計画というのはだいぶ先ではないか。

【回答】学校の統合を進めていく上で、1つの統合をまとめるためには2～3年は必要と考える。PTAをはじめとする保護者間の話し合いであったり、教員間での話し合いが相当必要となる。できるだけ早く統合できるように検討していきたい。

【質問】10年後に江戸崎中学校の建物に入るだけの小中学生の数になった場

合は、西部地区の義務教育学校になるのか。

【回答】仮に1つの中学校施設に小中学生が入った場合であっても、小学校と中学校を別に設置することは可能である。教育委員会としては、校舎が同じであっても、小学校と中学校は別に設置し校長先生をそれぞれに配置したいと考えている。

【質問】人口減少から増加に転じた場合は計画をどうするのか。

【回答】5年に一度計画を見直していくため、閉校する予定であった学校を存続させたり、閉校の時期を延ばしたりするような計画に変更していきたい。

【質問】閉校する学校の利活用についてどのように考えているのか。道の駅に再利用したりする自治体もあるので、その学校の卒業生に寄り添って考えてもらいたい。

【回答】市役所全体で閉校となる学校の跡地利用を考えていきたい。できる限り有効活用できるようにしたい。